



vol.73

2019年  
2月28日  
発行

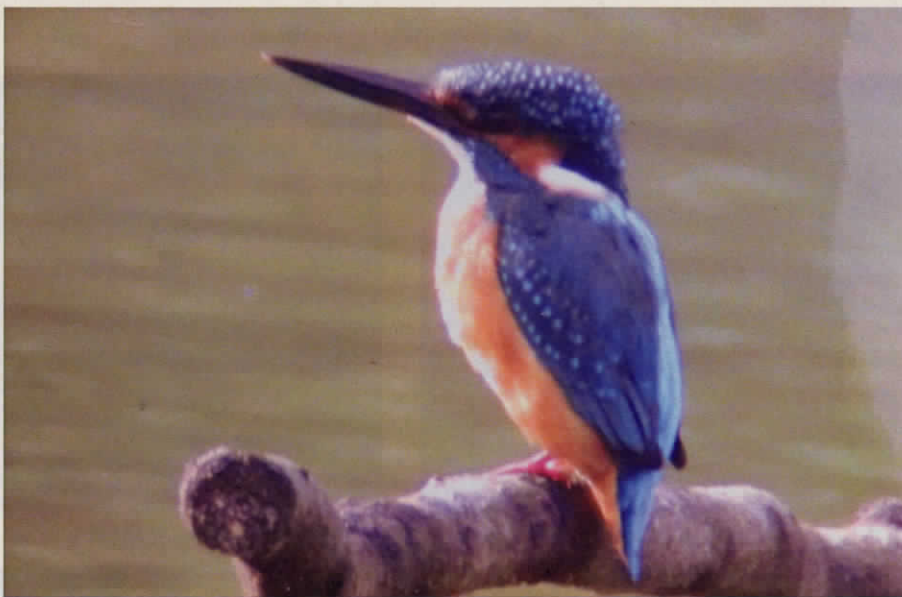
日本山岳会

# 「高尾の森」通信



—小下沢風景林の森づくり活動—

会員数：192名  
(2019.1.31 現在)



## 「うそ・かわせみ」

「うそ」(和名)の由来は口笛を意味する古語「うそ」から来ており  
ヒーヒーと口笛のような鳴き声を発することから名づけられ、  
漂鳥または冬鳥として全国に広く分布する。

また、「かわせみ」の名は「川に棲むセミ」の意で  
「セミ」は古名の「ソニ」が「ソビ」に変化し転じて「セミ」になった。  
「ソニ」の「ニ」は土の意味でソニ(青土)からきた。

<http://JACtakao.net>

February 2019 01

# 小下沢 NOTE 冬

深山冬イチゴがあちこちに生っています



12月定例作業



B班が作業段取りのミーティングです



準備体操で身体をほぐしています



研修担当が植栽地めぐりを実施

滝の沢林道の修復を実施



帰ったら道具のメンテナンスをしっかりと



1月定例作業



さあ、一年の始まりです!



安全を祈って山の神に祈願しました



機械班も出動です

高枝切りのプロ?登場!!



今年のメイプル調査が始まりました

2月定例作業



A班 板当作業地で作業前の記念写真



定例作業日は雪が舞っていました



作業道もうっすら雪道です



故 河西顧問の偲ぶ会に多数参加しました



ザリクボ班に多数参加しています



D班のやさしい、こわもて二人組



林間の落ち葉の中を進むC班



作業が終わって  
道具の手入れ



会の手旗作成をしました



寒い日のお汁粉はありがたいものです

もくじ

小下沢 NOTE.....02  
 安全に作業を行うために.....04  
 植樹活動の復活！.....05  
 会員紹介.....05  
 落葉広葉樹の森づくり.....06  
 幹事会報告.....08  
 森の研修会報告.....09  
 カエデ樹液の流動調査報告...10  
 ことば.....11  
 事務局からのお知らせ.....12

ヒヤリハット事例から

# 安全に作業を行うために

副代表 松隈 茂

最近、「斜面を転がり落ちた。子供の頭大の石がすぐ横を転がり落ちていった。」とのヒヤリハットの事案の報告が上がってきました。会員全員が初心に帰って再度、これらに注目し、ケガ・事故の発生がないように気を引き締めましょう。

## 一般的注意事項

- 1 寒さ対策**…移動中、作業中は暖かいです。汗が出て急激に寒くなります。防寒・吸汗対策を！（風邪ひきのもと）
- 2 暑さ対策：熱中症**…無理をせず水分補給を！、塩分も忘れずに（スポーツドリンク、塩飴）
- 3 ハチ刺され**…ハチを見つけたら、巣がないかじっとして探す。巣に近寄らない。触らない。その場を離れる。刺されたら、刺された箇所の救急処置

暑さ寒さ対策



ハチ刺され



## 作業中の注意事項

- 4 作業地への移動**…足元・周囲の確認。石を落とさない。
- 5 作業地内の移動**…安全に移動する。安全なところに足を運ぶ（転ばない、滑り落ちない）。両手は極力開けておく。
- 6 上下作業**…石など落下の危険。作業者の配置、作業者間の位置の確認
- 7 近接作業**…倒れる木の高さの2倍の範囲内は立ち入り禁止。刃物、チェーンソーの作業範囲の2倍以上の距離の確保を確認
- 8 落石対策**…上下作業、歩行での落石注意：危険のないように交互に移動
- 9 ロープの使用・牽引**…安全に留意して、足場を確保。安全な場所で、すぐ手離せるように持つ。
- 10 伐倒作業**

滑り落ちない



落石注意



## 作業終了時の注意事項

- 11 道具・器具の撤収**…道具は忘れないように。持ってきたものは各自、責任を持って帰ること。
- 12 道具・器具の整備・収納**…ベースに帰ってきたら、整備、刃ものは低いで返却するように。

☆ 刃が向う側



# 植樹活動の復活!

副代表 松川征夫

新たな気持ちで新しい年をお迎えのことと思います。

我々の会も今年で19年目、来年は20周年となります。下のグラフは、2018年末での年代別人数データです。(保険用平均年齢表より)

<50代 15.9%、60代 19.4%、70代 47.9%>  
毎年若い人の入会を課題として広報中心にイベントなどに取り組んできました。

例えば599ミュージアムでの「高尾の森と生き物たち」や、また毎年5月に行われる日比谷公園での「緑のフェスティバル」もパンフレットの配布など勧誘に努めてきました。しかしながら昨年1年間では7名の新会員に留まりました。

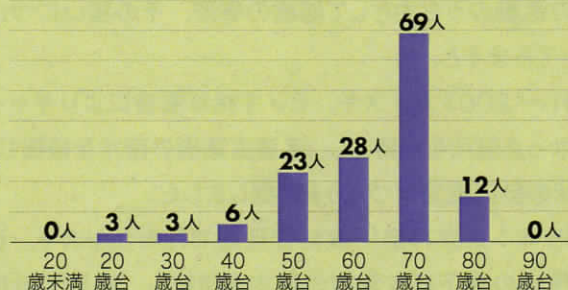
今年は、今までのイベントに加え、我々のフィールドを使い2015年度で終えている「植樹」を復活させてはどうか? 過去のような大規模な植樹は出来ないものの小規模でも良いので当分続けていけたらと考えています。

また、現在201林班で体験林業にも取り組んでいますが、あと2年で完了の予定でその後の姿を描く年でもあります。スムーズに移行できるよう皆さんと知恵を絞りたいと思っています。双方とももちろん森林管理署の承認が必要なことは言うまでもありません。

昨年の会報2月号で吉川代表から「一歩踏み出そう!」との激がありました。

植樹がどのような効果があるかは実施してみないと解らない面もありますが一歩踏み出し、森林で汗を流す素晴らしさと足跡を残す体験をして当会にも関心を持っていただき新しい仲間の入会につながればと思っています。今年も安全第一で取り組みます。

会員の年齢構成 (保険用平均年齢表)



2017年の定例作業、忘年会からデビューした機械作業班の川上智です。名前はサトルと読みます。1959年生まれで今年還暦を迎えます。

コマツのチェーンソー講習会繋がりが高尾グリーン倶楽部を紹介され入会。グリーン倶楽部繋がり「高尾の森づくりの会」にも参加させて頂く運びとなりました。まさにソーチェーン リンクです。

幼少の頃から遊びが好きで小学校3年生からボーイスカウトの活動を通してキャンプやハイキング、ボランティアでは山林の伐木などをやりました。その後スキューバダイビングや素潜りなど海の遊

## 会員紹介 13

こんな人☺️です…川上 智さん

「休みの日は  
四六時中  
チェーンソー」



びに没頭。また山に戻って、沢登り、滝登り、ロッククライミング、アイスクライミングなどクライミング中心に山登りを40年ぐらいやっています。

山繋がり某山麓にある山荘周辺の森林整備を始めチェーンソーに興味を持ちま

した。山荘と架線の傍にある大木を伐木する為、ロープを使って木に登り、枝打、トップカットといったアーボリストのテクニックも研究実践。今では山登りはそちのけで休みの日は四六時中チェーンソーです。伐木出来れば幸せで、できれば大きな木がいいといった向きです。

そんな調子で長いこと山や森林に携わっているものの森林に関する知識はからきしダメです。これではいかんということで一大奮起、森林インストラクターの勉強を始めましたがテキストは一読しただけでホコリをかぶっています。そんな私ですが皆様と楽しく森の仕事ができればと思います。よろしく願い致します。

# 落葉広葉樹の森づくりが

# 鳥



# 類

# に与えた影響



白井聰一



高尾の森づくりの会が高尾小下沢国有林で行っている森林整備活動が、この森に棲み、森を利用する生物のうち、森林性鳥類の個体数にどのような影響を及ぼしたかについて10年間調査を行いました。そしてその結果をまとめ日本鳥学会に投稿しました。以下に、会誌に掲載されたものの概要を森づくりの視点から報告します。

れの行き届かない森林は、公益的機能や生物多様性の面からは決して好ましい環境ではなく、そこで、スギ、ヒノキ林のギャップ地と間伐林の樹下に広葉樹の苗木の植樹をはじめました。高尾山の気候は暖温帯と冷温帯の境界に位置し、小下沢国有林は冷温帯側にあるため主に落葉広葉樹を植樹しました。

## 1 森づくり活動の取り組み経緯

森づくり活動として取り組んできたこと：高尾の森づくりの会では発足当初から落葉広葉樹の苗木を植樹してきました。数年後にはスギ、ヒノキ林の間伐にも着手しました。これらの活動のうち主として植樹の場所、その狙いについてたどってみますと、

- 2001～2007年：スギ、ヒノキ林が雪害によりギャップ地になった箇所を地拵えし、落葉広葉樹の苗木を植樹し、パッチ状の針広混交林づくりを目指しました。
- 2008年：東京神奈川森林管理署で行われたスギ、ヒノキ択伐林の樹下に広葉樹の苗木を植樹し、複層の針広混交林づくりを目指しました。
- 2009～2012年：東京神奈川森林管理署で行われたスギ、ヒノキ林の皆伐地と間伐地の樹下に植樹し、パッチ状混交林と複層林づくりを目指しました。
- 2012～2015年：残されたギャップ地で植樹し、パッチ状針広混交林づくりを行いました。
- 2016年～現在：植樹場所がなくなり、スギ、ヒノキ人工林の間伐作業を行いました。

なぜ落葉広葉樹の苗木を植樹したのか：我が国では第2次世界大戦後の復興のために大量の木材資源を必要とし、森林伐採が行われました。その跡地に将来の活用資源としてスギ、ヒノキ、カラマツ等が植えられました。日本の森林面積の40%を占有するほどになりました。これらのスギ、ヒノキ林は現在収穫期を迎えています。安価な輸入材に市場を奪われ、多くが放置されたままになっています。手入

## 2 樹木への生長と利用者の動向調査

高尾山一帯は東京都民をはじめ多くの人々に憩いの場を提供しています。広葉樹林は多様な樹種の森として誰からも好まれ利用されています。しかし、森林の利用者には哺乳類、鳥類、昆虫類など種々の生物がいます。全ての利用者にとって望ましい森が出来上がりつつあるのでしょうか。

これまで落葉広葉樹の苗木を30種以上植樹しています。樹種により差があるものの、多くは10年も経つと樹木に生長します。生長が始まった広葉樹の苗木を見ていると、昔、スギ、ヒノキだらけの森になってから鳥が減ったという報告を思い出します。このため、われわれが行ってきた針広混交の森づくりは鳥類にとって望ましい環境を提供できるのではないかと考えました。そこで、広葉樹林の生長の兆しが見え始めた2006年から森林の利用者である鳥の個体数の増減について調査を開始しました。

小下沢一帯で留鳥として生息している森林性鳥類の鳴き声を定点で録音し、その音声から調査対象種の出現率の変化を10年間フォローしました。録音場所は四方を尾根に囲まれた221林班内の5D/E植栽地の中にあるシロザクラの中位木の2m高のところを定点として決めました。苗木がうっ閉しても録音環境として影響の少ないところを選択しました。留鳥10種を対象とし、毎年4～5月の1日の日の出前30分から日の入り後30分の時間帯で、15分に1回以上鳴いた場合出現ありと記録しました。15分を1ユニットとする1日の総ユニット数に対する出現ユニット数の比率を当該種の出現率としました。

### 3 調査でわかったこと

種ごとに毎年の出現率をグラフ化し、増減の傾向があるかどうかを調べました。一方、2005年から生育調査の一環としてうっ閉（樹林化）調査を実施していましたが（うっ閉の定義は森通信 vol.35号で報告）、これによりますと、2001～2005年植栽地ではその時に植えた苗木は次の表で示すように2012年前後から急速にうっ閉が進みました（植栽年別うっ閉率推移は森通信 vol.55号で報告）。

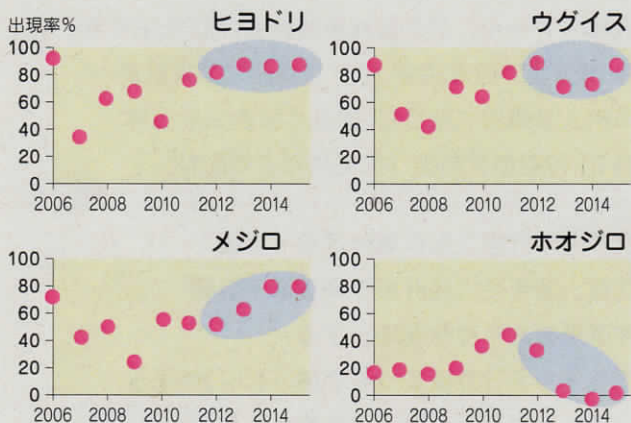
#### 2001～2006年植栽地の植生遷移

A ● ギャップ地 B ● 植栽地 C ● 草地 D ● 林地

	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
2001	B	C	...	...	...	...	...	...	...	...	D	...	...
2002	A	B	C	...	...	...	...	...	...	...	...	D	...
2003	A	...	B	C	...	...	...	...	...	...	...	D	...
2004	A	...	...	B	C	...	...	...	...	...	...	D	...
2005	A	...	...	...	B	C	...	...	...	...	...	...	D
2006	A	...	...	...	...	B	C	...	...	...	...	...	...

これらの植生遷移データの傾向に基づいて出現率データを見ると、2012年を境に増減が認められる種が4種いることがわかりました。残りの6種の増減傾向は特定不能でした。

#### 出現率に増減のあった鳥類



これらの出現率の変化は、ギャップ地とならずスギ、ヒノキ人工林として順調に生長していたらどうなっていたか興味あるところでもあります。そこで、変化が始まった2013年から3年間、北稜側にある212林班のスギ、ヒノキ100%の人工林内に録音定点を定め、同一日時にデータを採取し比較しました。

この結果、調査対象種のうち8種が常にギャップ修正をした針広混交林の方で出現率が高いことがわかりました。



### 4 今後の取り組みについて

以上の結果より、広葉樹の森づくりは森林性鳥類の一部の種に好影響をもたらしていることがわかりました。このうちホオジロが減少したのは、彼らの主な生息地が草地であり、森林の成長とともに草地が減ったためと考えられます。また、樹林化が進んだとはいえまだ不十分であり、さらに広葉樹林としての成熟が進めば残りの種についても増傾向となるものが出てくると考えられます。

鳥類以外の利用者では哺乳類についても2010年から赤外線カメラによる調査を進めています。これによりますと、ニホンジカ、ニホンカモシカの出現頻度が年々高くなっていることが報告されています。広葉樹林比率が高くなった森林は、その形成過程の草地の増加も含めて彼らにとって望ましい環境を提供していると考えられます。しかし、これらの種は個体数が増えすぎると森林に災害をもたらすと考えられ、一方的に増加が望ましいとは考えられない種であります。

とはいえ、広葉樹林化は生物多様性にプラスの効果をもたらす重要な活動であり、その結果として生じる問題は、今後の課題として対策が講じられるべきであると考えます。植樹は森林のあらゆる生物に影響を与える重要な森林整備活動であります。



なお、以上の投稿論文をお読みにになりたい方は、[http://ornithology.jp/wabun/next\\_issue.html](http://ornithology.jp/wabun/next_issue.html) にアクセスし、鳥学会誌67巻2号の「針葉樹林ギャップ地を落葉広葉樹林に再生する過程における鳥相の変化」(白井聰一)をPDFでダウンロードしてください。

# 2018年度 幹事会だより 12月～2月 (抜粋)

当面の重要な課題と今後の対応

- ★今期の活動総括(2018年度報告)と次期5ヵ年計画(8月を目途に署へ要望の提出)
- ★安全管理教育実施(森づくりマニュアル/作業安全整備、安全講習計画等)
- ★会員増加策検討(広報、一般会員向けイベント/森林体験スクール等実施)

## 12月度 幹事会

日時/12月4日(月)  
18時30分～21時00分  
会場/立川市女性活用センター  
参加者/幹事10名、監査役2名  
オブザーバ2名  
議長/吉川代表  
書記/組澤

### 審議 事項

1. 会員増加策の審議⇒了承・継続(全員参加)
2. 来年度の育樹祭を植樹祭などで検討⇒了承・継続
3. HP改良策(外部依頼を含め検討)⇒了承・継続
4. 599ミュージアムイベントに参加⇒了承、計画実施へ
5. 次年度事業計画(森林整備協定確認)  
215,216林班処置、板当国有林の公募が有れば対応

### 報告 事項

1. 紅葉鑑賞会⇒好評、準備と班連携は少し改善要
2. 上柚木公園委託、都有林、年間スケジュールなど報告
3. 河西さんを偲ぶ会⇒100人程度の参加者
4. ヒヤリハット報告有り⇒リーダーは朝礼で注意喚起
5. 滝ノ沢/小下沢林道の倒木処理を機械班に依頼(後実施済)

## 1月度 幹事会

日時/1月7日(月)  
18時30分～20時30分  
会場/立川市女性活用センター  
参加者/幹事8名、監査役2名  
オブザーバ2名  
議長/吉川代表  
書記/湯川

### 審議 事項

1. 今年度作業班方針(エリアなど説明)⇒了承・継続
2. 安全管理の提案⇒了承、チーム検討、実施計画へ
3. 春のイベント提案⇒了承、計画作成・審議へ
4. 環境整備(林道～ベース迄ゴミ多々)、意識して清掃を!

### 報告 事項

1. 上柚木公園整備委託事業 ⇒奇数月に竹切り等実施
2. 板当物置撤収⇒有志により道具類回収(後、1月完了済)
3. 親子森林スクール、学生森林体験教室の計画説明⇒了承
4. 都有林PJ(4ノ沢申請完了)、3月度に来期計画へ
5. 会費未納入者報告(確認)、道具小屋換気扇設置
6. 三宅島PJの参加者募集(三宅島だより配付)

## 2月度 幹事会

日時/2月4日(月)  
18時30分～21時00分  
会場/立川市女性活用センター  
参加者/幹事8名、監査役2名  
オブザーバ1名  
議長/吉川代表  
書記/湯川

### 審議 事項

1. 第5次5ヵ年計画立案体制⇒了承・継続
2. 安全管理・講習会実施計画等⇒了承・継続
3. 機械作業班の次年度作業地⇒了承
4. コニカミノルタ日野桜まつり参加(4/6)⇒了承
5. 滑車・スリングセット導入(各班へ、今期)⇒了承

### 報告 事項

1. 森林管理署訪問報告(1月署訪問、2/18現地見分)
2. 春の4月イベント計画(植樹祭等検討)⇒計画等継続
3. 親子森林スクール、都有林、HP担当など各報告
4. 八王子市「環境フェスティバル」参加(6/1)
5. 599ミュージアム「高尾の森と生き物たち」(3/23～31)
6. HP担当を契約予定、会の手旗・ベストなど準備

### ●ひとこと●

幹事会では「高尾の森」の具体的な課題と中長期目標の検討を実施中(創設時の夢に向かって)そこで、皆様のご意見を是非、幹事までお寄せ下さい。会員の思いが原動力です。



# ロープ 滑車 チルホール の使い方講習

仁藤正夫



1月26日の寒中厳しい中、有志精鋭の受講生(若林、猪川、中林、竹内、早川)と講師陣(白沢、寺田、諏訪、仁藤)は、小木沢で森の研修を行いました。

高尾の森づくりの会員は、健康で強力な方々が揃っています。ちょっとした掛り木などはロープを掛け、腕力だけで処理する場面がよく見かけられます。しかし、時々足場を外し、急斜面を2~3回転の曲芸までする方もいます。大変危険な状態です。

僭越ながら若輩研修担当としては、皆さまに「知恵と道具」を使った安全作業を普及していきたいと企画しました。

機械作業班の方々には、ロープと滑車は常備品として装備しており、日頃から使用しています。今回、入会間もない受講生に機械作業班の方々から、優しく、丁寧に、実習を含め教授してもらいました。



## 1 時限

日当たりのよい駐車場に机を並べロープ、滑車、スリング、カナビナ、チルホールとはどのようなものから始まり原理、構造、使い方を一通り説明いただきました。これらの道具は、登山用品では高価ですが、レスキュー用品としても販売されており、手頃な価格で入手できるとのこと。

## 2 時限

実践的なロープの結び方の演習がありました。木にロープを確り固定し、簡単に外せる「もやい結び」(当会員は絶対会得項目)、ロープ一端を立木や倒木に固定する「ねじり結び」、ロープの中間に輪を作る結び「バタフライノッチ」、ロープ引きの際、棒をロープ中間に結ぶ「巻き結び」を繰り返し、体に畳み込まれました。(ほんとか?)

## 3 時限

中学校の理科でならった滑車の体験演習です。木材組合の斜面に転がっている太さ20cm、長さ3m、約100kgの丸太にスリングを介しロープを掛け、山側を固定滑車で引きます。これが1倍引きです。全く一人の力では動きません。当会では、固定滑車も使わないで人力で引いているときがあります。

丸太側のロープに「バタフライノッチ」を作り、動滑車を入れロープを通して引きます。漸く一人の力でも移動可能になりました。これが3倍引きです。山側に動滑車をさらに付け、5倍引きにしたところ、片手でも丸太が移動できました。道具は素晴らしい。

3時限目は、小下沢右岸に入り、3倍引きの滑車付ロープでの伐倒を体験しました。さらに9月のチェーンソー研修で伐倒した倒木の処理をロープと滑車を使い行いました。

皆さんとも、大変良い研修でした。終了時はすでに日は傾き、16:00になっていました。

# カエデ樹液の流動

## 調査報告

メープル班 山崎 勇



\*メープル班の活動は、1月下旬から3月上旬の毎週木曜日です。興味のある方は参加をお待ちしております。

メープルシロップはカナダ産が有名ですが、日本のカエデ(28種)からも樹液を採取し煮詰めると同様のメープルシロップができます。

H26年2月から調査を始め今年で6年目となりました。昨年は調査結果を東京神奈川森林管理署(平塚)に説明し正式に許可を得ました。販売を目的にせず、定期的に調査結果を報告することで了解をえました。

調査は、まずイタヤカエデ(成長も早く大木になる)のベース付近での分布調査を実施し生育位置、形状(単幹か株状か)、胸高直径などを調べました。その結果、カエデ樹液採取可能(直径30cm以上)な木が数十本有ることがわかりました。

3本を調査木(K204、K205、K222)として選び、流動時期、採取量、糖度、気温、天候などのデータを採取しています。

また初年度に植樹したイタヤカエデも直径が20センチ樹高8mになり4年前から試験的にカエデ樹液の流動調査を始めています。

### 調査活動

#### イタヤカエデの分布調査

①ベース付近(小下沢、ザリクボ沢)で樹液採取可能な木が数十本ある。

②高尾の森で植樹したカエデの木、3450本(イタヤカエデ1030本)になりました。

\*将来メープルの森に成長するでしょう。

#### 樹液の流動(採取)時期の把握

①事前に流動時期を正確に把握し採取器具を取り付ける事が大切です。

\*前年からの気象条件(気温や日照時間など)により流動時期が大きく変化します。早いと1月下旬、遅いと2月中旬(桜の開花時期にほぼ連動)

#### 樹液の採取方法

①樹液採取木(樹勢の良い木)の選定

②採取器具の取り付け、穴空け、タップ、チューブ、ポリタンク、温度計、調査票等

③樹液の採取と回収、毎週実施(多い時期は週に20L以上です。)

④データ(天候、温度、採取量、糖度測定)

⑤採取器具の取り外し、幹に開けた穴の養生(埋め戻し又は消毒)

#### 樹液の成分

①採取した樹液は、ほぼ無色透明、飲むとほのかな甘みがあります。糖度は、1.5~3.5%

②甘みの成分はショ糖が主体で果糖やブドウ糖を含む

③ミネラル分を多く含む(Ka, Ca, An, Mgなど)

④ビタミンB1、B2やポリフェノール、酵素など美容健康に良いそうです。

#### 調査して分かったこと

①ベース付近で採取可能なイタヤカエデは数十本あり株状の幹のものが多い。



カエデ樹液の竈での濃縮

- ② 1/10 濃縮液…料理や和洋菓子に利用
- ③メープルシロップにする。1/40 まで煮詰める。  
シロップの種類 採取時期により5種  
エクストラライト/ライト/ミディアム/アーバン/ダーク
- ⑥秩父カエデ生産組合の商品 登録名「和メープル」の例  
和洋菓子、シロップ、サイダー、ゼリー等……

高尾の森づくりの会は、約2万本の落葉広葉樹を植樹してきましたがカエデの他にもくるみの実やキハダの樹皮など活用できる樹種が多くあります。

スギやヒノキは一度伐採すると数十年の間収益が見込めませんが、カエデ樹液の採取は数十年間にわたり安定的に採取が可能です。

数年前から荒れたスギヒノキの人工林を切り開きカエデの木を植える活動が各地で行われています。我々の高尾の森づくりの会は18年前からこのような活動をしております。高尾の森は、近い将来立派なメープルの森に育って行くことでしょう。

②初年度の調査木(直径20数cm)でも昨年は1.5L採取できた。

③調査木3本の樹液採取量は、30～50L/本(穴空け1か所)で平均110L

④高尾の森のカエデの流動時期は、1月4W～3月1Wの間で気候により毎年変化する。(桜の開花時期にほぼ連動)

\*気温が最低-4度C 最高4度C程度で樹液の流動がはじまる。

⑤流動時間、昼間が主体で10時頃から15時頃が活発に流動(0.5L/1時間 2～3L/1日程度と思われる)

⑥糖度(濃度)が流動初めは低く、後半で高くなる傾向がある。初め1.5%→後半3.5%

メープルシロップも採取時期により色合いが濃くなる。

### 機械作業班メンバー募集のお知らせ



6月から作業班の再編に伴い、チェーンソー等を使った作業をしたい方、興味のある方を会員より広く募集致します。各機械の作業資格をまだお持ちで無い方でも、機械作業のサポートとして同じ現場で作業して頂きます。皆様の参加をお待ちしておりますので3月中に機械作業班白澤までご連絡下さい。

qzk05066@nifty.com

### カエデ樹液の活用

①樹液原液 そのまま利用

沸かしてコーヒー/紅茶で飲む

ショウチュー、ウイスキー等を割る。

### ことば

佐久間 文



### 『一期一会』

いつも皆様にはお世話になっております。定年を機に北海道の小樽から三宅島に渡って、12年目の春を迎えております。それまで住宅建材製造会社に勤務し、大量の木材を消費してきたことから定年後は木を植えて人生終わりたいものと思っておりました。

島暮らしも長くなり、そこで感じ、自

分なりに大切にしてきたことの一つに、ありきたりですが「一期一会」があります。島では人との出会いが多い分、また別れも多いということでしょうか。旅行者の方々や転勤族の方々、高尾の皆さんほか島外からのボランティアの方々、皆さんとの出会いは常に「一期一会」と隣り合わせと言えるでしょう。4年前の年末のこと、全く知らない方から喪中はがきが届きました。「島だよりをいつも有難うございます。病床にあった父は元気になって『また三宅島に木を植えに行くのだ』と言っておりましたが、この夏他界しました。」と嫁いだ娘さんからの便りでした。お悔やみの言葉と共に、「ご来島の機会がありましたら、お父さんが植樹した場所にご案内いたします。」との感謝の言葉添えて返信いたしました。



高尾の森の方では5年前に伴さん、一昨年は渡辺さん、そして先日には河西さんのお別れ。私にとっての「一期一会」の思いは、ご一緒できる時間を大事に次があったら、それは『おまけ』ということでしょうか。本来の意味とは異なるでしょうが齢と共に残された時間、「時」との「一期一会」を楽しみたいと思っております。

ツバキ咲く三宅島にて

ことば 高尾の森づくりの会で気になった言葉や出来事の「ことば」をテーマに会員みなさんからの文章をお持ちしています。

## 主な作業・行事記録

12/8	定例作業	82名 (忘年会63名)
12/23	都有林PJ	15名
2019年		
1/12	定例作業	70名
1/26	森の研修会 (共催チェーンソー実践講習会)	9名
1/27	都有林PJ	18名
2/9	定例作業 (降雪日)	53名
2/23	チェーンソー実践講習会	
2/24	都有林PJ	

## 会員動向

退会者 長い間ありがとうございました  
 明智 清明さん 石井 秀夫さん

## 2019年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。

### 1. 納入には郵便振替をご利用ください。

会報73号に同封したゆうちょ銀行払込取扱票にて納入の場合、払込料金は会が負担します。

- 口座記号番号 00160-3-688239
- 加入者名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

### 2. 他の金融機関から振込の場合

- 銀行名 ゆうちょ銀行 019 (ゼロイチキュー) 店
- 当座預金 口座番号 0688239
- 口座名 日本山岳会「高尾の森づくりの会」

### 3. 納入期日 3月22日(金)

3月末に一括してボランティア保険に加入の手続きを行う関係上、期日までの納入にご協力ください。

### 4. 納入金額

	年会費	ボランティア保険料	合計
賛助会員	3,000円	なし	3,000円
一般会員	3,000円	500円	3,500円
家族会員	2,000円	500円	2,500円
学生	1,000円	500円	1,500円

注1 他の団体等でボランティア保険に加入する場合は、その団体名等を払込票に記入してお知らせ下さい。重複して加入する必要はありません。

注2 従前より機械作業登録をしている方で、今後この登録を継続しない方も、同様にその旨を記入してお知らせください。

## 今後のスケジュール (予定)

3/9	定例作業日
3/23~31	599ミュージアムにて 「高尾の森と生き物たち」
3/24	都有林PJ
4/6	コニカミノルタ桜まつり
4/7	安全管理研修会
4/13	定例作業日
4/14	親子森林体験スクール1
4/17	慈恵学園出前授業
4/20	慈恵学園森林体験教室1
4/20	植樹祭 (春のイベント)
4/28	都有林PJ
5/11	定例作業日
5/11~12	みどりにふれあうフェスティバル
5/12	親子森林体験スクール2
5/18	慈恵学園森林体験教室2
5/24~26	三宅島PJ
5/26	都有林PJ

## 定例の専門班活動

- ◆ものづくり・小屋管理班 (安藤リーダー)  
毎週木曜日、第三土曜日に活動
- ◆哺乳類動物生態調査班 (山崎リーダー)  
毎週木曜日に活動
- ◆植物生態調査班 (千谷リーダー)  
毎月第一水曜日に活動

## イベント情報

### 高尾の森と生き物たち

高尾の森づくりの会の活動を紹介するパネルや、動物カメラ映像、木工作品、横川コレクション等を展示し、会の魅力をPRします。積み木で遊ぶコーナーも設けます。お友達やご家族をお誘いの上、ご来場ください。

- 日程 3月23日(土)～31日(日)
  - 時間 11:00～16:00  
(3/23は13:00～16:00)
  - 会場 高尾599ミュージアム2階展示室
- ☆会期中、お時間がある方はお客様への対応にご協力お願いいたします。



## 編集後記



毎日、寒い日々が続いています、2月の定例作業日にも雪が舞い、作業小屋前のテラスは毎朝、凍結しています。でも、「もうすぐ春ですわね～、ちょっと高尾のベースに来ませんか？」  
 みなさんの参加をお待ちしています! (小山圭司)

